

建築社会システム委員会 2009-2011 活動報告

2011・3・21

森本信明（2009、2010）

安藤正雄（2011）

2009—2011の目標

【前委員会からの引継ぎ】

- 1) 研究活動の活性化
- 2) 小委員会相互の交流・点検
- 3) 計画系委員会相互の交流の機会を拡大
- 4) 関連学会との学際的な交流や、国際的な交流
- 5) 情報公開・情報発信

【今次委員会から追加】

- 6) 若手研究者層の育成

研究活動の活性化

大会発表数	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	113	164	202	175	216	188

大会協議会

(2010)

研協 CRE (企業不動産) PRE (公共不動産) 管理の新潮流

PD 建築ストックを活用した新たなビジネスモデルのための技術とデザイン

(2011)

研協 建設産業の未来のために今やるべきことー韓国から学ぶべきことー

研懇 集合住宅再生のための建築社会システムー市場での適正評価を目指してー

PD 「利用の時代」の建築とマネジメントを考える

(2012)

研協 東日本大震災一年半・初動期の住宅対策と住宅復興に向けた課題

PD 公共施設における施設管理台帳のあり方

計画系委員会相互の交流

住宅系研究報告会の発展

(建築計画・都市計画・農村計画・建築社会システム4委員会合同)

2006年 第1回より

2010年 第5回・・・建築社会システム委員会担当

- 4つの計画系委員会における住宅分野の研究交流
- 住宅系若手研究者の発表の場として定着

2010・2011年度特別研究

「持続可能な都市住宅地を実現する建築社会システムのあり方」

- 建築社会システム・建築法制委員会合同提案＋建築計画・都市計画
- 大都市の住宅地を主な対象にすえた共同研究
- 2011年度 研究協議会「計画的住宅地は持続可能か」
→建築学会以外のパネラーを加えての学際的議論

その他

- 大会時の懇親会を同一会場で実施することを慣例化してきている

委員会活動の対外的発信

建築学会技術部門設計コンペ 2010年度

「建築ストックを活用した新たなビジネスモデルのための技術とデザイン」

応募は37作品

第一次審査 2010年6月26日

最終審査 2010年富山大会初日

最優秀作品 「ダンチdeノウチ」

2010年度

日本建築学会

技術部門設計競技

『建築ストックを活用した新たなビジネスモデルのための技術とデザイン』

主催
日本建築学会 建築設計コンペ委員会
賞状授与
2010年6月26日(土)
賞状式
〒150-8511 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-15-1 日本建築学会会館 15F
TEL:03-3480-0102, FAX:03-3480-0103, E-mail:web@aiheij.com.jp
URL: http://www.aiheij.com/aiheij/aiheij.html

シンポジウム

第25回 建築生産シンポジウム

第26回 建築生産シンポジウム

第27回 建築生産シンポジウム

建築生産セミナー(2009年度)

建築生産セミナー(2010年度)

建築生産セミナー(2011年度)



東日本大震災への対応

● 建築計画委員会との共催(2011年度)

建築計画系震災関連WG連続拡大委員会

ー 東日本大震災について考え・行動する(ミニシンポ3回開催)

● 2012年度大会研究協議会企画

東日本大震災一年半・初動期の住宅対策と住宅復興に向けた課題

● 2012年度開始特別研究委員会

(建築計画委員会および建築法制委員会と共同提案)

東日本大震災による住宅・不動産被害と復興問題からみた建築社会システムのあり方研究

小委員会の構成と活動実績

小委員会構成 2010年体制

- ★ 建築生産
- ★ 建設産業
- ★ 建築コスト

生産系

経営系

建築社会システム委員会

住宅系

- 住宅需給構造
- 住宅の地方性
- 住宅ストック

- 建築企画
- 建築プログラミング
- 固定資産評価
- プロジェクトマネジメント
- 施設マネジメント
- プロパティマネジメント
- 発注者問題

住宅需給構造小委員会（吉川徹主査）

年度	09	10	11	12
----	----	----	----	----

●公募委員2名を迎え発足

●大会OS「生活環境と住宅需給」開催

（目的）住宅需給に関する戦後の年表作成●
ライフスタイルからの住宅需要分析●
需要に応じた供給システムの分析●

09～11年度の活動成果

- ①住宅需給年表に関して収集した資料の入力を完了した。また公団の子どもスペース変遷に着目した分析を行った。
- ②多摩ニュータウンの高齢者の居住様態研究を行った。
- ③H0A等を組み入れた住宅供給事例調査を行った。

地域居住政策WG(主査: 鈴木 浩)

住まい・まちづくり学習WG(主査: 碓田智子)

☆主な活動成果

■2009年度

- 1) 公開研究会を開催し、地域の住宅事情及び住宅政策についての意見交換、現地見学を行った。
①長崎研究会(5月、30名参加)、②仙台研究会(9月、27名参加)
- 2) 地域居住政策WGが中心となって、大会時に研究協議会「世界金融・経済危機と住宅政策の行方」を開催し、研究成果を資料集にまとめた。

■2010年度

- 1) 公開研究会を開催し、地域の住宅事情及び住宅政策についての意見交換、現地見学を行った。
①群馬研究会(5月、25名参加)、②富山研究会(9月、30名参加)
- 2) 登録会員(約90名)の研究情報を収録した名簿(改訂版)を発行し、情報交流を図った。
- 3) 第5回住宅系研究報告会の代表幹事として企画・運営に携わり、12月の研究報告会では、34編の研究報告と対談を行うことができた。
- 4) 住まい・まちづくり学習WGでは科研費を獲得し、新たな研究体制に入った。

■2011年度

- 1) 公開研究会を開催し、地域の住宅事情及び住宅政策についての意見交換、現地見学を行った。
①神戸・大阪・京都研究会(5月、40名参加)、②東京(墨田区)研究会(8月、35名参加)
- 2) 住まい・まちづくり学習WGが中心となり、大会時にオーガナイズドセッション「地域における住まい・まちづくり学習の多様な実践とその評価」を企画し、5編の論文発表が行われた。
- 3) 第6回住宅系研究報告会の運営幹事として企画・運営に携わり、12月の研究報告会では、32編の研究報告と対談を行うことができた。
- 4) 地域居住政策WGを中心に地域住宅情報検討会を組織し、住宅統計のあり方の検討を始めた。

住宅ストック小委員会(村上心主査)

◎2009年度の活動成果

- ・大会「研究懇談会」を開催(建築計画委員会住宅小委員会と連携)。戸建て住宅地マネジメント研究の到達点の確認、住宅地マネジメント研究に対する方法論の議論
- ・集合住宅ストック及び戸建て住宅地のマネジメント研究に関し、委員間での研究発表(委員会4回)

◎2010年度の活動成果

- ・集合住宅(区分所有マンション、公的住宅賃貸住宅)ストックの再生及び戸建住宅地の再生・マネジメントに向けた社会システムについて研究発表／討議／検討(委員会4回)

◎2011年度の活動成果

- ・大会「研究懇談会」を開催。集合住宅の再生による市場での適正評価について、法、融資制度、情報開示等の視点からの議論
- ・集合住宅ストックの再生・マネジメント研究、及び、戸建住宅地・集合住宅の震災復興調査関係について、委員間での研究発表(委員会3回)

建築生産小委員会

■ 主 査：戸倉健太郎

■ 設置目的：建築生産に関する技術や技能、また制度上の諸問題を広く研究・議論する

■ 2009-2011年度活動状況(催し物の開催)

- 第25回建築生産シンポジウム(2009/7/30-31、建築会館ホール)
資料「第25回建築生産シンポジウム論文集」発表題数49編、参加者数 111名
- 2009年度建築生産セミナー「施工技術の蓄積・展開・進化(2)」(2009/11/16、建築会館会議室)資料有、参加者数51名
- 第26回建築生産シンポジウム(2010/7/29-30、建築会館ホール)
資料「第26回建築生産シンポジウム論文集」発表題数47編、参加者数 96名
- 2010年度建築生産セミナー「施工技術の蓄積・展開・進化(3)」(2010/11/16、建築会館会議室)資料有、参加者数44名
- 第27回建築生産シンポジウム(2011/7/28-29、建築会館ホール)
特別講演「東京スカイツリーの施工」(大林組)
資料「第27回建築生産シンポジウム論文集」発表題数46編、参加者数 94名
- 2011年度建築生産セミナー「施工技術の蓄積・展開・進化(4)」(2011/11/16、建築会館会議室)資料有、参加者数35名

※建築生産シンポジウムでは建築生産の様々な分野の研究者・実務者からの最新の研究成果、事例報告の発表を通じて情報交換、意見交換を実施。

※建築生産セミナーではゼネコン各社の最新の施工技術を紹介し、意見交換を実施。

建設産業小委員会活動報告

2010年4月

委員会設置(建設労働小委員会から名称変更)

- 諸外国の制度に関する調査
韓国¹の建設産業基本法の運用状況を中心とした検討
- 建設技能労働者の処遇に関する調査
一人親方の実態等に関する検討

2011年度

大会研究協議会にて、韓国からゲストを招き、日本側は産業全体の関係者を揃えて討議をおこなった。

研協タイトル

建設産業の未来のために

— 建設産業の構造改善に向けた韓国の強い決意に学ぶ —

パネラー

沈揆範(韓国建設産業研究院)

李在錫(檀国大学校 研究教授)

内田欽也(国土交通省)

古阪秀三(京都大学)

山下雅己(戸田建設・日建連)

野城智也(東京大学)

才賀清二郎(建専連)

古市良洋(全国建設労働組合総連合)

建築コスト小委員会(主査:岩松準)

■沿革

- 1993年7月～建築コスト学術研究会(Study Team on Building Production Cost)
- 1996年4月～建築コスト小委員会(Sub Committee on Building Cost)
- 2001年4月～コスト管理小委員会(Sub Committee on Cost Management)
- **2008年4月～建築コスト小委員会(Sub Committee on Value in Construction)** ←

■09～11年度の活動内容

- **明治大正昭和期の建築経済、建築生産、産業組織、積算システム等の調査研究**
 - 五重の塔の建築コスト、建築士の報酬規定と積算職能について
 - 東京駅建設の歴史、ほか
 - 「建築コスト七不思議」に関するルーツ
 - 連載・建築コスト遊学(建築積算略史、建築経済学と建築コストの研究史、等)の紹介
- **先進諸外国の建築コスト管理等の調査研究**
 - 中国、韓国、台湾、米国、英国の積算事情についての調査報告、サウジアラビアの工事管理の状況、等
 - PAQS2009(マレーシア)、PAQS2010(シンガポール)、PAQS2011(スリランカ)についての情報交換
 - 英米の建設労務費の統計データ、英国の入札談合等に関する情報
- **建築コスト情報のあり方についての研究**
 - コスト関連用語(内外の専門用語集)の検討
 - 国の低入札対策、単品スライド条項等に関する議論
- **積算職能に関する研究**
 - 諸外国の積算職能の教育カリキュラム
 - RICSのQS部門の状況の紹介、等
- **建築コスト七不思議Q&A第1版(報告書の分担執筆:100頁)**
 - 建築コストワークショップⅤ開催(2012.2.24) 参加者:約50名

建築コスト七不思議Q&A
(第1版)

2012年2月

社団法人日本建築学会
建築社会システム委員会
建築コスト小委員会

建築企画小委員会(阪田弘一主査)

設置期間:2009年4月～2013年3月

■2009年度活動成果

1. 研究見学会

- ①(子ども環境学会と共催):キッザニア甲子園(西宮市)
- ②研究見学会:三河・佐久島アートプラン21(愛知県佐久島)
- ③研究見学会:BEPPU PROJECT2010(別府市)

■2010年度活動成果

1. 学会催し物

- ①2010年度日本建築学会大会 建築社会システム本委員会主催 技術部門設計競技
「建築ストックを活用した新たなビジネスモデルのための技術とデザイン」企画・運営
- ②2010年度日本建築学会大会 建築社会システム本委員会主催 PD
「建築ストックを活用した新たなビジネスモデルのための技術とデザイン」企画・運営

2. 出版

韓国語版『建築・まちづくりの夢をカタチにする力』(彰国社)刊行

3. 研究見学会

- ①豊崎長屋(大阪市)
- ②デザイン・クリエイティブセンターKOBE(旧神戸生絲検査所)(神戸市)

■2011年度活動成果

1. 今後の小委員会活動の基盤整備

- ①若手委員の公募・採用(2名)
- ②ウェブを活用した活動成果発信方法の検討
- ③研究活動の充実を図るための資金獲得としての科学研究費申請

2. 他組織と共催による研究見学会

- ①(日本建築学会近畿支部経済部会と共催):大阪駅リニューアル(大阪市)
- ②(日本建築学会近畿支部経済部会と共催):泉北ほっとけないネットワーク(堺市)

建築プログラミング小委員会

主査：山田哲弥（清水建設）

●設置目的：

- 建築を**活用する立場**から見た価値の高い建築を、関係する**さまざまな主体が協働**して創り上げるための、**経済的・社会文化的価値発現メカニズム**を探求する。
- 「建築プログラミング」の知見を広く、会員・社会に敷衍し、より価値の高い建築物の創造に寄与する。

●2009～2011活動

●事例調査研究の成果発表：

- 旭山動物園＋京都機械工具＋至民中学校：研究会成果の発表
 - 2009年度、2011年度大会に関連発表4編
 - 2010年近畿支部研究発表会関連発表1編

●見学会・研究会の開催：

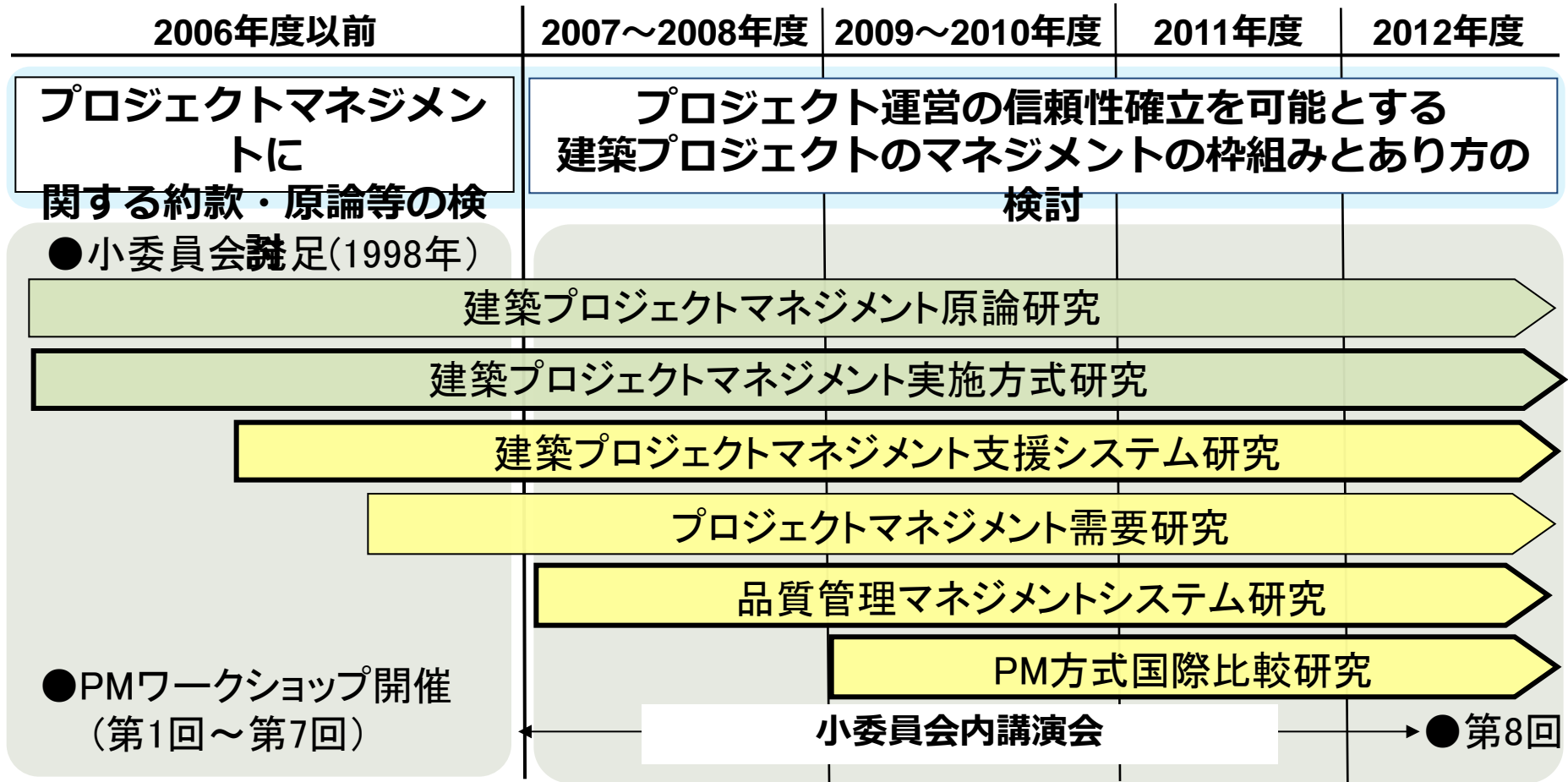
- 吉本興業東京オフィス(旧四谷第五小学校) (2009.9.28東京)
＜震災復興小学校の用途変更リノベーション事例＞
- 武庫川女子大/甲子園会館&建築学科スタジオ (2010.3.8)
- 岡山県立図書館 (2011.3.8岡山) ＜来館者数日本一の県立図書館＞
- **公開研究会：至民中学校のプログラミングプロセスを巡って**
＜異学年型教科センター方式を教育・建築・行政が協働して実現＞
(2010.9.29 福井 参加者38名)

●情報化＋情報公開への取組み：

- HP(<http://news-sv.aij.or.jp/keizai/prg/>)公開。
- 公開研究会資料集のWEB配布。



プロジェクトマネジメント小委員会(山崎雄介主査)



2011年度の活動成果



- ①わが国企業の国際建設プロジェクトにおける課題分析と対応策の提案
- ②大規模複雑プロジェクト管理方式の国際比較研究:都市開発・空港施設を対象に4例
- ③手法・理論的枠組、支援ツール等の検討:レジリエンス、リスク管理、設計変更管理

固定資産評価小委員会

2009年度

2010年度

●小委員発足(2009年4月)

主査:三橋博巳

➤小委員会開催6回

➤小委員会開催6回

●09～10年度の活動成果

①非木造家屋の再建築費評点基準表の合理化のために、価格等の設定方法、構造区分、造作、仕上材料、建具、給湯器、空調設備、運搬設備などの見直しについて検討を行った。

②木造家屋の再建築費評点基準表の合理化のために、資材・施工方法、用途・構造別の評点項目、用途・構造別の補正項目の見直しについて検討を行った。

施設マネジメント小委員会（山本康友主査）

年度	2009	2010	2011
----	------	------	------

- 小委員発足（2005年4月）

- 大会研究協議会「CRE・PRE管理の新潮流」

- 小委員会をほぼ隔月で開催、そのための作業部会を事前開催

2009～2011年度の活動成果

- ① 民間・公共施設の現況の調査および報告
- ② 上記結果を踏まえ、学会大会の研究協議会を開催。
2年間の成果を資料にまとめた。
- ③ 民間・公共施設の管理台帳の標準化のための作業を開始

プロパティマネジメント小委員会

■主査: 田村 誠邦

■ 2009-2011年度活動状況

2009年度 国内外の事例収集と建物の価値を高めるPMの方向性検討

2010年度 持続可能なストック型建築社会に向けてのPMのあり方についての議論の深化と地域におけるPMの事例調査・課題整理

2011年度 4年間の成果のまとめ

■ 日本建築学会大会

2009年度(東北) パネルディスカッション

「建築の価値を高めるプロパティマネジメント」

参加者: 約150名

2011年度(東京) パネルディスカッション

「「利用の時代」の建築とマネジメントを考える」

参加者: 約120名

発注者問題小委員会（主査：古阪秀三）

年度 09 10 11 12

●小委員発足（2009年4月）

原発事故での
発注者責任考

●研究集会

09～11年度の活動成果

●成果報告会

1. 成果：建築生産プロジェクトの発注者の姿勢を評価するマトリックスを作成し、いくつかのプロジェクトに当てはめ、現在、評価マトリックスの改善中→次年度半ばに成果報告会予定
2. 活動中：東京電力の原発事故を対象に発注者の責任を多角的に協議中→最終的には研究集会を企画
3. 計画：個別プロジェクトでの発注者の責任（明示的なものではなく、ダンピングが行われても発注者の責任外）、設計者・施工者の法規範上の責任（ダンピングがあろうとも、品質確保上は契約によって責任の軽重が変わることではない）を1～2年程度をかけて検討